森と生物多様性

「生物多様性」とは、
地球上に存在する3千万種ともいわれる種が
複雑に関係しあいながら多様な生態系をつくりあげることを指します。
多様な生態系は、私たちの暮らしを豊かにするための「恵み」を与えてくれます。
しかし今、合理性や経済活動を優先して資源を使い続けた結果、
世界中の生物多様性が失われつつあります。
生物多様性を保全し、持続可能な資源利用の方法を考えていくための
「森と生物多様性」についてご紹介します。

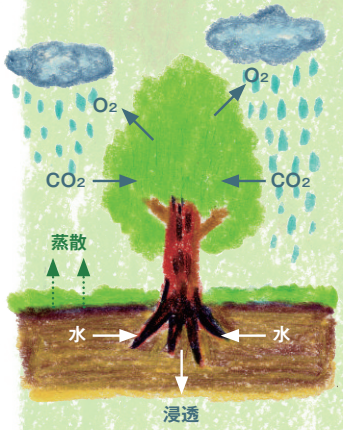
人間社会も生物多様性を担う一部

私たちの暮らしは、
自然の恵み（＝生態系サービス）なしには成り立ちません。
木材や水、衣類、薬剤など直接的な資源はもちろん、
水質の浄化やCO_2の吸収など環境を調整する機能、
自然に心が癒されるといった
文化的、精神的な恩恵も、生態系サービスのひとつです。
この生態系サービスを支えている生物多様性が今、
急速に失われつつあります。

森は生物多様性の宝庫。日本の森はいま…

多くの命が森によって育まれ、
私たち人間もその恩恵に頼っています。
大気を浄化し、土壌をつくり、
水を蓄え、成長している森は
二酸化炭素を吸収してくれます。
生物多様性を支える森を
活かしながら
暮らしていく必要があります。

森の機能



成長している樹木は大気中の二酸化炭素を吸収し蓄えて、酸素を放出。雨は土壌に吸い込まれて地下水に。地面や葉から水分は蒸散し、また雲となります。

原生林

一度も伐採などの人の手が入らず、本来の生態系が守られた森。現在日本に残る原生林は、屋久島、白神山地など全体のほんの一部。

天然林

自然の力で生育した森のこと。伐採などで人の手が入っていても、自然の力で更新され、保たれている森林であれば天然林と呼ばれます。

人工林

木材として木を利用し経済活動をするための森。目的に合った木を一から植え、育て、収穫するというサイクルを長いスパンで行い管理します。

奥山

人があまり入りこまない深い山奥のことを、古来「奥山」と呼びます。神が棲むところとも考えられていました。

里山

人が、食糧や薪などの天然林の恵みを享受し、また適度に手を加えることで豊かな生態系が保たれた場所のこと。

水蒸気

雨

水蒸気

海

森から海へ、海から森へ。森の栄養分は循環し、森が海を作り、また海が森を作ります。両者は密接につながっているのです。